

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所ぶれも(放デイ)		
○保護者評価実施期間	令和6年9月1日		～ 令和6年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	90	(回答者数) 73
○従業者評価実施期間	令和6年9月1日		～ 令和6年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年11月30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	社会性・コミュニケーションを育む療育をおこなっていること。	グループ活動ではSSTを取り入れ、友達の発言を聞いたり、話したりする活動を通して他者理解を深められる様にしている。	活動の振り返りや話し合いの時間を多く設け、より質の高い意見交換や問題解決のための言動・意見を考える取り組みをしていく。
2	職員研修が充実していること。	週1回職員研修の時間を設け、それぞれの分野の専門職が他職種に向けて研修を行っている。	定期的に職員と面談を行う等、各々の職員の希望を確認しながら、保護者や子ども、職員のニーズにあった研修や、支援の質が向上する研修を実施していく。
3			

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の併用をしている利用者に対する支援の共有が少ないこと。	相談支援事業所を通じた会議等への参加は行っているが、それ以外での支援の共有が定期的に行えていないこと。当事業所からの発信の機会がないこと。	保護者に許可を取ったうえで併用事業所との見学・会議の機会を設けていく。またそこで決まった支援内容を内部のスタッフ間でも共有し事業所の療育にも取り入れていく。
2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていることが保護者・利用者者に周知されていないこと。	訓練の実施について見える化が不十分なこと。	訓練での子どもたちの様子や課題や対応策などの気づきをその都度保護者に見える化し、共有していく。家庭においても実践できるよう、一緒に訓練に参加をしていただき非常災害の対応について考える機会を作っていく。
3			